

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 14 日

評価対象事業		評価者	教育総務課担当課長 尾高 淳一郎	
教育-09	実施事業	社会教育運営事業	自治事務	主管課 教育総務課
	まち・ひと・しごと		法定受託事務	関連課 文化人権推進課
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	多様な学習機会の提供と学習成果の活用

1 事業の目的

対象	市民等
意図	「生きがい」や「自己の実現」のみならず、地域社会の活性化や高齢者の社会参加の促進など、豊かな地域づくりを目指すため。
効果	「誰もが、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」ような生涯学習社会を構築する。

2 平成28年度に実施した事業の概要

- ・社会教育委員会議を開催した。
- ・社会教育全般に係る事務を行った。
- ・市内在住・在学の小中学生を対象にしたコンサート、鎌倉の伝統文化を体感する事業を開催した。
- ・教育文化施設建設の財源に充てるための基金を運用した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	177,243人	人 口	176,466人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	80,676世帯	世 帯 数	81,150世帯	
	事業の対象者数	1,392人	事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	9,979	当初予算(千円)	7,215	
	国県支出金	0	国県支出金	0	
	地方債	0	地方債	0	
	その他	6,329	その他	3,318	
	一般財源	3,650	一般財源	3,897	
	人員配置数	0.6	人員配置数	1.1	
事業経費運営	人件費(千円)	4,566	人件費(千円)	8,489	
	総事業費(千円)	14,545	総事業費(千円)	15,704	
	市民1人当りの経費(円)	82	市民1人当りの経費(円)	89	
	対象者1人当りの経費(円)	10,499	対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	今後市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
公 平 性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	△-1. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
	協働実施済	協働実施済の場合のパートナー 鎌倉シティプラス、鎌倉ジュニアオーケストラ等
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	現在取組んでいる事業は、市民のニーズも高く、毎年多くの参加者を集めている。PTA関連の行事にも、多くの保護者が参加しており、現状維持とする。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	子ども関連の事業には、毎年多くの児童、生徒、保護者が参加しており、中には抽選をして参加者を選んでいる事業もある。また、PTA関連の行事には、多くの保護者、教職員が参加、交流し、子どもたちのよりよい成長の一端を担っている。今後も、事業を継続することで、鎌倉の未来を担う子どもたちの成長を援助していきたいと考えている。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	社会教育担当職員が少ない中、効率的な運営により、現存の事業を継続させていくとともに、より充実した学習機会が提供できるように努めていく。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	夏休み子ども写生大会、子どものためのウインターコンサート、かまくらこどもコンサートの3つの事業において、事業の効率化を図るとともに、市民のニーズにあった学習機会の提供に努めた。また、子ども向けの新規2事業を実施したが、これまでの社会教育事業の中で培ってきたノウハウを活かして、効率的に事業を進めた。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	コンサートのできる会場が鎌倉には少ないことから、改修工事等が入ると、会場確保が難しくなってしまう。平成29年度は、鎌倉芸術館の改修工事が入り、鎌倉女子大学松本講堂を使用させていただいた。松本講堂は、普段、一般貸し出しをしていない施設のため、今後、安定して事業を実施していくには、より広域的に公共施設が使用できる仕組みが必要ではないかと思われる。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	
---------------------------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	3回の主催事業					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		H28年度は 写生大会が 中止のため、 2事業の 値。
子どもに対するより多くの学びの 機会の提供	目標値	750	750	750	750					
	実績値	755	995	765						
	達成率	100.7%	132.7%	102.0%						

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	予定している二つのコンサートは、会場の定員もあるため、実績値が大幅に増えることは考えられない。同程度に推移していくことが、事業の成果が得られていると考えられる。
------------------------------	---